

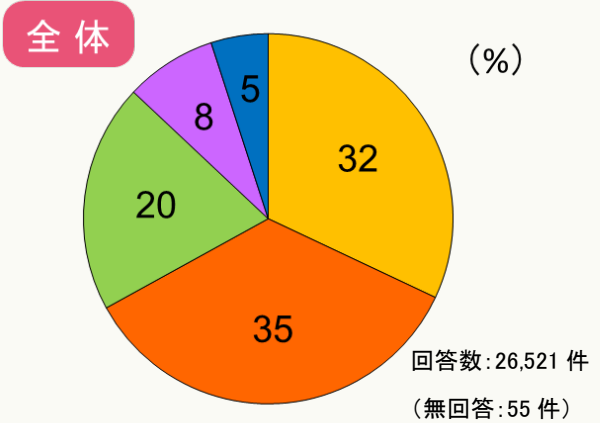
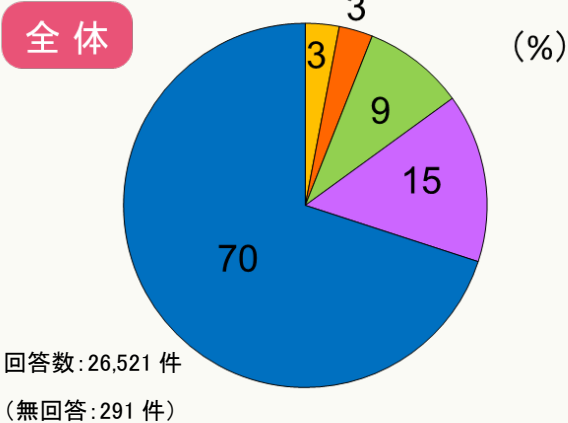
エコチル調査の集計結果を紹介する、「おしえて、エコチル先生！」。今回は、2歳時の「子育てのことを話せる環境」についてです。国立成育医療研究センターの小枝達也先生が解説してくださいました。先生は小児科と小児神経の専門医であり、エコチル調査メディカルサポートセンターの精神神経発達分野プロジェクト長です。

2歳児をもつエコチルママさんたち約26,500人に、子育てのことを話せる環境について、聞きました。

2歳時

お母さんとパートナー(配偶者など)が
子どもの話をする機会

お子さんと同年代の子を持つ
保護者同士の交流機会



- めったにない
- 週に1~2回
- 週5回以上
- 月に1~3回
- 週に3~4回

- めったにない
- 週に1~2回
- 週5回以上
- 月に1~3回
- 週に3~4回

(注意) この結果は 2014 年 11 月 30 日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

お母さんとパートナー(配偶者など)が、子どもの話をする回数について聞きました(左図)。その結果、約7割のお母さんは、週5回以上パートナーとお子さんの話をする機会があり、その一方で週1回にも満たないお母さんが約5%いました。

また、お子さんと同じ年代の子どもを持つ保護者同士の交流機会の回数についても聞きました(右図)。約7割のお母さんは、月1回以上、保護者同士の交流機会をもっていました。その一方で交流の機会がめったにないというお母さんも約3割いました。

エコチル調査では環境中の化学物質が子どもたちの精神神経発達に与える影響を調べることも目的の一つとなっています。「子どもの育ち」には、保護者の気持ちのゆとりなど、さまざまな子育て環境が影響します(これらを交絡因子と呼びます)。ですから、こうした交絡因子を同時に調べておく必要があるのです。

ひと昔は「子育て不安」を如何に減らすかが、子育て支援のテーマでしたが、最近では「育児困難感」を軽減し、「ゆとりある子育て」が大切だと言われています。パートナーと子育てについて話し合うことで、一体感を持って子育てができ、子育てのゆとりへとつながります。

また、幼児も2歳になると感情や意思の表出が豊かになってきます。イヤイヤが増えてきて、手をやくことも多いのではないのでしょうか?そんなときは保護者同士が交流することで、気晴らしができたり、自分だけではないことを知り、ちょっとホッとしたりできます。こうした交流がもっと増えてくるといいですね。

(2015年12月1日)



■今月のエコチル先生

小枝達也 先生

エコチル調査メディカルサポートセンター
精神神経発達分野プロジェクト長
国立研究開発法人国立成育医療研究センター
こころの診療部長